

肝臓がん 最近の動向と治療



肝胆脾外科部長
安近 健太郎 (やすちか けんたろう)

「原発性肝がん」と、

肝臓以外のがんが肝臓に転移した「転移性肝がん」があります。

肝臓以外のがんが増加しており、ここ20年間で2倍以上になっています。ウイルス性でない肝細胞がんの原因は、アルコール性と非アルコール性に分けられ、近年、特に増加しているのが非アルコール性脂肪性肝疾患です。

肝臓には痛みを感じる神経がなく、食べ物が通過する臓器で診断します。

肝臓がんは、別の症状で受診した際や健康診断で偶然に発見される場合、慢性肝障害をお持ちの患者さんが定期的に検査を受けていて見つかる場合が多いです。

肝臓がんは、別の症状で受診した際や健康診断で偶然に発見される場合、慢性肝障害をお持ちの患者さんが定期的に検査を受けていて見つかる場合が多いです。

肝臓がんは、別の症状で受診した際や健康診断で偶然に発見される場合、慢性肝障害をお持ちの患者さんが定期的に検査を受けていて見つかる場合が多いです。

「原発性肝がん」と、肝臓以外のがんが肝臓に転移した「転移性肝がん」があります。

肝臓以外のがんが増加しており、ここ20年間で2倍以上になっています。ウイルス性でない肝細胞がんの原因は、アルコール性と非アルコール性に分けられ、近年、特に増加しているのが非アルコール性脂肪性肝疾患です。

肝臓には痛みを感じる神経がなく、食べ物が通過する臓器で診断します。

肝臓がんは、別の症状で受診した際や健康診断で偶然に発見される場合、慢性肝障害をお持ちの患者さんが定期的に検査を受けていて見つかる場合が多いです。

肝臓がんは、別の症状で受診した際や健康診断で偶然に発見される場合、慢性肝障害をお持ちの患者さんが定期的に検査を受けていて見つかる場合が多いです。

肝臓がんは、別の症状で受診した際や健康診断で偶然に発見される場合、慢性肝障害をお持ちの患者さんが定期的に検査を受けていて見つかる場合が多いです。

「原発性肝がん」と、肝臓以外のがんが肝臓に転移した「転移性肝がん」があります。

肝臓以外のがんが増加しており、ここ20年間で2倍以上になっています。ウイルス性でない肝細胞がんの原因は、アルコール性と非アルコール性に分けられ、近年、特に増加しているのが非アルコール性脂肪性肝疾患です。

肝臓には痛みを感じる神経がなく、食べ物が通過する臓器で診断します。

肝臓がんは、別の症状で受診した際や健康診断で偶然に発見される場合、慢性肝障害をお持ちの患者さんが定期的に検査を受けていて見つかる場合が多いです。

肝臓がんは、別の症状で受診した際や健康診断で偶然に発見される場合、慢性肝障害をお持ちの患者さんが定期的に検査を受けていて見つかる場合が多いです。

肝臓がんは、別の症状で受診した際や健康診断で偶然に発見される場合、慢性肝障害をお持ちの患者さんが定期的に検査を受けていて見つかる場合が多いです。

「原発性肝がん」と、肝臓以外のがんが肝臓に転移した「転移性肝がん」があります。

肝臓以外のがんが増加しており、ここ20年間で2倍以上になっています。ウイルス性でない肝細胞がんの原因は、アルコール性と非アルコール性に分けられ、近年、特に増加しているのが非アルコール性脂肪性肝疾患です。

肝臓には痛みを感じる神経がなく、食べ物が通過する臓器で診断します。

肝臓がんは、別の症状で受診した際や健康診断で偶然に発見される場合、慢性肝障害をお持ちの患者さんが定期的に検査を受けていて見つかる場合が多いです。

肝臓がんは、別の症状で受診した際や健康診断で偶然に発見される場合、慢性肝障害をお持ちの患者さんが定期的に検査を受けていて見つかる場合が多いです。

肝臓がんは、別の症状で受診した際や健康診断で偶然に発見される場合、慢性肝障害をお持ちの患者さんが定期的に検査を受けていて見つかる場合が多いです。